

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

4 青少年育成

～青少年が健全に成長・発達しているまち

<A 基本計画の目標>

青少年の地域との連携を深めるため、青少年団体に対する活動を支援し、指導者の育成を図ります。あわせて、地域活動やボランティア活動への参加を支援します。

家庭、学校や地域と連携する中で青少年の健全な育成を図ります。

安心できる環境の中で子どもたちが遊びや生活を通して自主性をはぐくみ、社会性を身につけられるよう支援します。

家庭、学校、地域などでの青少年を取り巻くさまざまな問題に対応するために、相談指導体制の充実と非行防止に努めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	64.1 %	70.7 %	70.9 %	68.3 %	65.2 %	↓

<C 目標達成に向けた23年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【こどもみらい部】

	自己評価
<p>子ども会館・子どもの家の整備については、深沢小学校内の「ふかさわ子どもの家」について、入所を希望する児童が増大したため、空き教室を利用し、一室増設し、平成24年4月から使用できることとなりました。</p> <p>子どもの家の機能の移転に伴い廃止を予定していた梶原子ども会館については、平成24年度中に子育て支援団体と市による協働事業として、施設運営を行うこととなりました。</p> <p>暫定的な施設となっている「だいち子どもの家」については、鎌倉体育館の敷地の一部と第一小学校の敷地の一部を活用して、本格的な子ども会館・子どもの家を建設することになり、関連機関との調整を行い、平成23年度中に設計業務を行いました。平成24年度に建設工事を行い、平成25年1月の開設を目指しています。</p> <p>なお、小学校近隣の施設の有効活用について陳情が提出されている、小坂小学校区の子どもの家の小学校周辺への移設は、民間施設の活用を検討しましたが、具体的な計画が立案されるまでには至りませんでした。</p> <p>施設が老朽化しているおなり子どもの家について、市第4分庁舎に移転を計画し、平成24年5月に開設します。</p> <p>子ども会館の利用率をアップさせるため、午前中に乳幼児と保護者向けの講座を新たに実施しました。</p>	○
<p>平成23年8月に子ども・若者育成プランを策定し、平成23年度に子ども・若者育成プラン推進協議会を開催し、実施体制を整え、特に重要な取組について、検討を始めました。平成24年度以降は、子ども・若者育成プラン推進協議会を中心に、プランの目標達成に向けた取組を検討します。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【こどもみらい部】

<p>子ども会館・子どもの家の整備経緯、子ども・若者育成プランの策定に関しての記述が中心で、学校・家庭・地域の連携や、相談指導体制の充実と非行防止に関しての評価が行われていない。</p>	⇒	<p>学校・家庭・地域の連携や、相談指導体制の充実と非行防止については、その重要性を認識し、子ども・若者育成プランで取組を記載しているところです。平成23年度にプラン推進協議会を立ち上げました。今後、具体的な推進方法について協議会において協議を行いながら、関係各課と検討します。</p>
<p>箱モノを用意するだけが事業ではなく、そこで何が行われるかの方向性を示すのも、市の役割ではないだろうか。子ども・若者育成プランも鎌倉らしさを如何に出すかが大きな課題と考える。</p>		<p>プランの目標3に「鎌倉の自然・歴史・文化とかかわりながら、鎌倉を愛する心を育てよう」を掲げ、鎌倉に育ったことへ誇りを持ちつつ、郷土へ貢献する大人となることを期待するものです。</p>
<p>「子ども・若者育成プラン」は、「きらきらプラン」、「教育プラン」と年代が重複してる。それぞれのプランの役割分担を明確にして、実行に移してほしい。</p>		<p>きらきらプランは、子育て中の親に対する支援を通じて子どもの健全育成を図るもので、保護の対象として幼少期がメインとなっています。これに対し、子ども・若者育成プランは、保護対象として子どもから大人へと移行していくための自立支援であり、大人になって親となり、再度きらきらプランに戻ってくるという「循環」の関係にあります。 教育プランは、子どもの成長過程において自立と自律を身に着けることを目的に学校教育の目標を定めたものです。3つのプランは、それぞれ「子どもたちの健やかな成長」を目的としたものですが、アプローチの仕方が異なると考えています。</p>
<p>子ども・若者を取り巻く環境は変化が激しく、策定後も随時見直ししながら進めたい。</p>		<p>プランの進行管理をする中で、子ども・若者を取り巻く環境の変化を注視し、必要な時期に見直しをしていきます。</p>
<p>家族や地域の大人の言動が子どもにも影響する。相手の立ち場立って考えることができる人を育てたい。</p>		<p>子ども・若者育成プランの中では、目標4「子どもと共に、大人も成長しよう」を掲げ、大人に自らの意識改革を促しています。また新規事業として、「他人を思いやることの大切さを学習する機会の提供」を記載しています。これに基づき具体的な取組を進めます。</p>

<E 23年度未達成事業の課題・問題点など>

【こどもみらい部】

<p>子ども会館・子どもの家の整備については、小坂小学校区での子ども会館・子どもの家の小学校周辺への移設やサテライト的な施設の設置が求められており、平成24年度に実施する耐震診断の結果を見ながら、計画を立案していきます。入所児童数が急増している山崎子ども会館・子どもの家の増床が急がれます。</p>
<p>※未達成の理由<支障となった理由> 小坂小学校区については、適当な建設候補地や賃借する場合の物件が見い出せないためです。 山崎子ども会館・子どもの家の増築については、平成24年度中に実施予定です。</p>

<F 今後の展開(取組方針)>

【こどもみらい部】

子ども会館・子どもの家の整備については、小坂小学校区での子ども会館・子どもの家の小学校近隣施設への移設やサテライト的な施設の整備、山崎子どもの家の増築、腰越子ども会館他3施設の耐震診断を行い、結果に基づく対応をしていきます。

小学校から距離のある西鎌倉子ども会館・子どもの家や岩瀬子ども会館・子どもの家については、父母からの要望を分析しつつ検討を進めていきます。

また、子ども会館未設置学区の解消については、子ども会館の在り方や方向性に検討を加えつつ、全市的な視野をも踏まえて、計画を立案していきます。

子ども・若者育成プランについては、平成24年7月に講演会を開催し、プランに掲げた目標が達成できるよう市民への啓発と地域で青少年育成活動をしている団体のネットワークづくりを図っていきます。

青少年の居場所づくり、青少年会館が青少年に魅力的になるための仕掛けなどプランが実現するための具体的方策について子ども・若者育成プラン推進協議会を中心に検討を進めます。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	H22年度 目標値	H27年度 目標値
子ども会館の利用度(+)	子ども会館の1日平均の利用率	3.4 %	3.4 %	3.1 %	3.1 %	3.1 %	4 %	5 %
青少年育成活動参加率(+)	青少年育成活動に参加したことがある市民の割合	18.6 %	15.8 %	18.7 %	17.2 %	17.8 %	21 %	24 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	265,431千円	253,438千円	282,372千円	253,811千円				
	(国・県)	29,083千円	33,301千円	42,458千円	33,522千円				
	(負担金等)	39,693千円	44,534千円	46,925千円	47,185千円				
	(一般財源)	196,655千円	175,603千円	192,989千円	173,104千円				
	人員配置数	5.5人	5.8人	5.7人	5.5人				
	人件費 (B)	50,935千円	56,670千円	53,304千円	51,640千円				
	総事業費(A+B)	316,366千円	310,108千円	335,676千円	305,451千円				
	対前年比		98.0%	108.2%	91.0%				

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・平成23年に子ども・若者育成プランを策定し、子ども・若者育成プラン推進協議会を立ち上げ、重要な取組について検討を始めた。(推進協議会の活動の内容が見えないが。)
- ・子ども・若者育成プランの目標4「子どもと共に、大人も成長しよう」には共感を覚える。
- ・子ども会館・子どもの家、青少年会館等、子ども・若者の安全な居場所を提供しているとともに、鎌倉らしい青少年育成の仕組みを充実に向けて努力している。
- ・子どもの家への入所を希望する生徒の増大に対処するため、空き教室を有効利用した。また、他の施設の進行具合について開示されている点がいいと思う。
- ・梶原子ども会館の、子育て支援団体と市の協働事業による運営開始は今後につながるように期待する。
- ・新規事業としての「他人を思いやる大切さを学習する機会の提供」。



課題・提言

- ・青少年の居場所づくり、青少年会館が青少年に魅力的になるための仕掛けなど、「子ども・若者育成プラン」が実現するための具体的方策の検討が必要であり、少しでも早く成果に結びつくように、日程を意識して進行管理して頂きたい。
- ・推進協議会の活動内容等が見えるようにすべきである。
- ・子どもの家・子ども会館の充実として、子ども会館未設置学区の解消が必要である。ただし、子ども会館の利用の実績値が伸び悩んでおり、子ども会館の在り方や方向性についても検証すべき時期に来ている。
- ・例年指摘していることでもあるが、取組の多くが施設の整備及び維持・管理に関するものであるが、重要なことはそこで行われている活動であることから、どのような活動を促進するために、個々の施設が機能しているかに視点をおいて頂きたい。
- ・震災の経験を有効に生かして、青少年が鎌倉のまちを創造していくといった大きな視野から青少年育成を考えて頂きたい。
- ・青少年育成活動参加率が少ないようだが、市内には多数の文化・スポーツ団体があり、携わる父兄はボランティアで支援している。実数はこれよりあると思うので、行政と協力しながら見守りたいと思う。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成23年度の取組は、**良好であった。**